

(様式1)

[年度] 平成29年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 紀州龍神地鶏開発プロジェクト

[担当機関名] 畜産試験場養鶏研究所

[連絡先] 0738-54-0144

[専門分野] 畜産

[分類] 研究

[背景・ねらい]

本県田辺市龍神村には、300年以上の歴史を持つ地域固有日本鶏品種「龍神地鶏」が存在します。現在、和歌山県には特産の地鶏品種が少ないことから、県内地域振興並びに養鶏振興を図るため、「龍神地鶏」を活用した県産地鶏品種「紀州龍神地鶏」の開発を実施しました。

研究では「龍神地鶏」と商用品種（卵肉兼用ライトサセックス）を掛け合わせた交雑種を作り、卵用及び肉用の用途で飼育し、性能を調査しました。

[研究の成果]

1. ふ化した交雑種の羽毛色はオスが白色（写真1）、メスが茶色（写真2）でふ化時点から雌雄判別が可能で、ふ化時点からメスは卵用、オスは肉用の飼養管理ができます。
2. 卵用メス（22～73週齢）の成績は平均産卵率66.8%、平均卵重43.4g、平均卵殻破壊強3.34kg/cm²となりました。また、52週齢以降、産卵率及び卵殻破壊強度が急激に低下し、52～73週齢では平均産卵率は55.7%、平均卵殻破壊強度2.7kg/cm²となりました。（図1）
3. 肉用オスは120日及び150日飼育しても体重が2kg未満と小さく（表1）、体重1kg増加させるために必要なエサの量は、120日飼育で平均5.2kg、150日飼育で平均7.4kgと生産効率は低くなりました。一般的に流通している鶏肉の品種は約50日飼育で体重は約3.0kg、体重1kg増加させるために必要なエサの量は2.0kg程度です。



写真1 交雑種オス（羽毛白）



写真2 交雑種メス（羽毛茶）

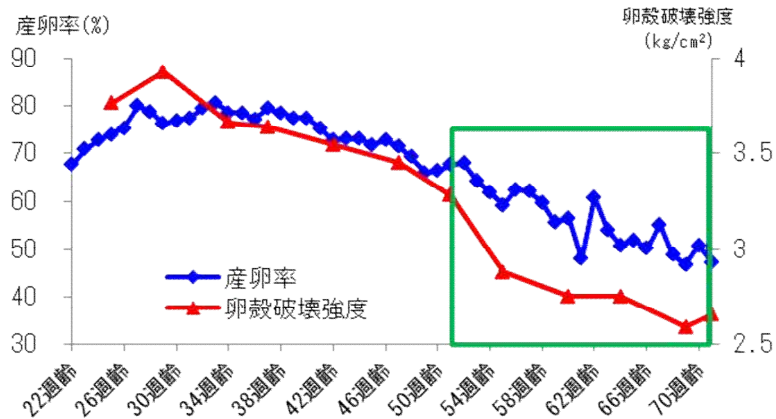


図1 交雑種雌の産卵率および卵殻破壊強度の推移

表1 交雑種オスの体重の推移

	36日齢	64日齢	92日齢	120日齢	150日齢
120日飼育	368.6g	761.8g	1179.4g	1545.7g	—
150日飼育	383.5g	824.4g	1215.6g	1587.3g	1789.2g

[成果のポイントと活用]

1. 龍神地鶏は、観賞用として飼育されてきたため卵用および肉用としての性能は高くありません。しかし、商用品種と掛け合わせることで龍神地鶏（産卵率 20.8%、体重オス 1.3kg）よりも性能の高い卵及び肉用の交雑種を作ることができます。
2. 卵用メスはふ化後1年以降、産卵率と卵殻強度が下がるため、鶏の更新が必要です。
3. 今後、ライトサセックスよりも性能の高い品種との掛け合わせを調査し、交雑種の生産性等をより高める取組を継続します。
4. 現在、和歌山県には特産地鶏が少ないため、希少な固有品種「龍神地鶏」を基にした本県独自の商用地鶏品種による県内地域振興・養鶏振興が期待できます。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）

研究期間：平成27～29年

研究担当者：橋本典和

発表論文等：

ホームページ掲載の可否：可